

Sustainable
Development Goals

S

Report 2023



SHINKAWA

経営者メッセージ

当社は、企業理念「新しい価値の創造を通じて社会に貢献する」のもとに、技術商社と振動センサーメーカーが持つ技術力を活かし、地域のお客様、世界のお客様に、DX(デジタルトランスフォーメーション)時代に向けた、価値を提供していくことが社会貢献に繋がると考えています。

またWell-Being(ウェルビーイング)時代に向け、一人ひとりが快適で活躍できる職場や社会をつくるのが持続可能な社会の実現に繋がると考えています。

そこで、未来の地球と人々の暮らしを守るために、2015年に国連で採択された17項目の持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)の中で、特に以下の4つのGoalについて、当社の事業活動を通じて社会課題の解決と企業利益を両立させ、持続可能な社会づくりのための挑戦を行ってまいります。

- 「4. 質の高い教育をみんなに」、
- 「8. 働きがいも経済成長も」、
- 「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、
- 「17. パートナーシップで目標を達成しよう」

社員一人ひとりが未来の地球と人々の暮らしを守るためにSDGsを理解し、新しい技術や考え方を取り入れ、地域のお客様、世界のお客様の課題を解決し、高い価値を創造することで、社会に存在意義を現し貢献できる企業を目指してまいります。

新川電機株式会社
代表取締役社長
新川 文登

4 質の高い教育を
みんなに



社員の学ぶ機会
と成長する機会
を提供します

8 働きがいも
経済成長も



安心な職場と生活、
多様な働き方
を提供します

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



工場の安定化や
環境配慮製品を
提供します

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



開発途上国への
技術者派遣
や技術支援を
行います

新川電機グループは創業95年の歴史を持ち、品質方針「顧客の立場に立脚した思考と行動」をもとに、お客様が直面する課題に対し、常にお客様目線で考え、技術力、モノづくり力、アフターサービス力を活かし、ソリューションビジネスを展開しています。

すべてのヒト、モノ、コトがデータで繋がる社会となり、これまでにないスピードで技術が進歩し、新しい変化の時代が来ています。この様な環境変化の中で、当社は次の3つの方針を重点テーマとして取り組んでまいります。

1. 技術力とモノづくり力、そしてアフターサービス力を結集して、お客様に高い価値を提供し、未来を拓く企業として取り組み、社会に貢献してまいります。
2. 専門メーカーとして、振動をテーマに変位センサの開発・製造を行ない、お客様の設備である回転機器設備(タービン、コンプレッサ、ポンプ、工作機械など)の安全運転と予知・保全に最適化のソリューションで貢献してまいります。
3. 必要とする教育を行ない、お客様の現場環境の改善と設備の安全、生産効率向上に貢献できる人材育成を行い、人々が豊かに暮らす未来社会の姿を示したいと考えています。

2020年度から全社規模でSDGsプロジェクトを立ち上げ、社員一人ひとりがSDGsを理解し、社員が自ら考え提案した社会課題をテーマに掲げ、その解決に職場や職種、役職に関係なく集まったメンバーでチームをつくり、主体的に取り組んでいます。新しい時代のソリューションビジネスを通して、社会に貢献できる企業として、SDGsの目標達成に取り組んでまいります。

取締役執行役員
SDGs推進室長
田屋 将

経営戦略とSDGs





製造の限界に挑戦

IoT・DX化で製造の技術革新に貢献



お客様企業の製造の最適化や品質・生産性向上のためのIoT化やDX化などの技術革新の基盤づくりに、技術商社と振動監視システム専門メーカーの技術力を活かし、貢献します。

●現状課題

製造業では製造の最適化や品質・生産性向上、製造設備の維持管理のためのIoT(※1)化やDX(※2)化の推進が課題となっています。

(※1)IoTとは、Internet of Thingsの略。
(※2)DXとは、Digital Transformationの略。

●目指す姿

全世界の企業の工場に対して、製造設備における様々なデータを繋げるIoT化やDX化の推進に貢献します。

●取り組み

当社は技術ソリューション企業として、IoTから振動監視、環境分析、FA化、AIまで、お客様が必要としている様々な製品やサービスを提供しています。お客様にとって、最適なシステム・ソリューションのご提案、またお客様の海外拠点

への技術員の派遣などに取り組んでいます。

エンジニアリング技術とカスタマーサポートが有機的に融合したトータルなソリューションを提供しています。

●事例紹介

製造現場の品質向上・生産性向上・自動化・省力化・環境保全・安全性向上を最新技術で実現する技術ソリューション企業として、製造現場で不可欠な計測・制御・情報の分野で、常に最新技術を取り入れ、お客様の生産活動をサポートしています。主要製品・サービスは下表の通りです。

●今後の展開

お客様企業や当社パートナーベンダーと共創して、製造の最適化や品質・生産性向上、製造設備の維持管理のためのIoT化やDX化を推進する全世界の企業に貢献することを目指します。

	社会貢献	主要製品・サービス
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>振動診断士養成セミナーで、計測・制御のプロフェッショナル「振動監視技術者」を育成します。</p>	<p>解析・診断システム 無線式センシングシステム</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>現場の環境や安全性を向上し、働きがいのある職場を実現する提案を行います。</p>	<p>状況監視モニタ</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>DX技術で、生産現場の企画からメンテナンスまで生産基盤を構築します。</p>	<p>スマート保全 遠隔監視</p> <p>計測機器 生産制御システム</p> <p>プラントオートメーション ファクトリーオートメーション</p> <p>分析ソリューション ネットワークソリューション</p> <p>定期校正 / 装置検証 計装工事</p> <p>ソフトウェア開発 計装エンジニアリング研修</p>
<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>社会を豊かにするための技術を国内外に広めていきます。</p>	

SDGsテーマと当社主要製品・サービス



グローバル展開

開発途上国の産業基盤構築の技術支援



グローバル拠点として、5つの海外拠点と、海外各国に代理店を展開し、アジア・中東エリアを中心に、工場の立ち上げや製造設備の維持管理技術の支援によって、産業の基盤づくりに貢献します。

●現状課題

開発途上国を含む世界各国が経済成長を成し遂げるために、産業基盤づくりの技術支援をいかに行っていかかが、日本を含めた先進国の課題となっています。

●目指す姿

世界各国への工場立ち上げや維持管理技術などの支援強化を通じて、開発途上国を含む世界各国の持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラ開発の促進に貢献します。

●取り組み

国内では、エンジニアリングと商社機能がしっかりと根付き、技術ソリューション企業として確固たるポジションを築いてきました。その一方、海外ではシンガポールの電力会社、インド最大の重電メーカーをはじめアジア・中東エリアへの振動製品の輸出の体制強化を図っています。

●事例紹介

【アジア・中東エリアの製造業への貢献】

- ①サウジアラビアの淡水化プラント向けの状態監視モニタ
- ②モンゴル電力庁向けのスチームタービン発電機の振動監視システムの更新
- ③モンゴルの発電所の試運転立ち合いなど

●今後の展開

自社の振動製品の展開を軸に、アジア・中東エリアなどの開発途上国が経済成長を成し遂げるために、産業基盤づくりの技術支援を強化してまいります。

●2030年目標

開発途上国を含む世界各国の支援国数について50カ国以上を目指します。



淡水化プラント向けの状態監視



発電機の振動監視システム更新



発電所の試運転立ち合い





スマート保安

保守・点検作業のプロフェッショナル



IoTやAIなどの最新技術を活用して、製造設備の十分なデータを収集し分析判断をすることで、お客様企業の老朽化が進む製造設備の安全性と生産性を高める取り組み(スマート保安)に貢献します。

●現状課題

企業は社会からこれまで以上に安全・安心を期待されています。昨今の製造設備が、大型化、高度化、複雑化し、運用の難易度が上がっている中、製造設備の予知・予防保全が求められ、これを実現することが課題となっています。

●目指す姿

当社のフィールドエンジニアは保守・点検作業を通じて産業の基盤を支える事業を行っており、それらの事業を通じて顧客へ価値を提供することがその先にある様々な社会課題の解決に繋がると考えています。

●取り組み

(1)現地試運転調整(スタートアップ)

当社のフィールドエンジニアは、豊富な経験と高い専門知識を持ち、プラントの建設や試運転調整において、これまで数多くの支援を実施しています。培ってきたノウハウは、国内だけでなく海外でも高い評価をいただいております。スーパーバイザとして世界各地で活躍しています。

(2)予防保全(保全計画)

お客様の安定した操業のために、予知・予防保全をはじめ、保全計画のご提案など、豊富な経験と最新の技術をバックボーンとした万全のサポートをお届けしています。また、安心して機器をご活用いただくために、全国15カ所のサービス拠点により、予期せぬトラブルにもすばやく対処できる体制を整えておりお客様の設備の「町医者」のような存在として、多くの信頼を得ています。

(3)設備保全・メンテナンス教育

産業の基盤を支えるためには技術者の育成が不可欠と考えており、設備保全・メンテナンスに対する教育を充実させています。これら教育は社内だけでなく、お客様にも提供しており、仮想プラントでの実機を使用した教育や、お客様の個別の課題を共有した教育も実施しています。

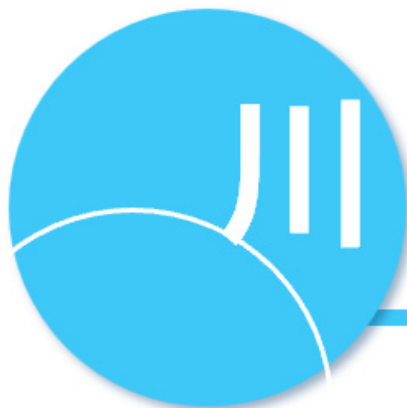
●今後の展開

当社はプロフェッショナルの集団であり、且つチームワークを重視しています。セールスエンジニアがお客様との密なコミュニケーションを通して課題を明らかにし、エンジニアがその解決方法や新しい仕組みをご提案するとともに、機器や設備の導入から保守・点検作業までをしっかりとサポートします。

たとえば、計測・制御にネットワーク技術を組み合わせたより効率的で使いやすいシステムの開発、IoTを使ったスマート工場の構築、製造設備のリアルタイム監視・診断による故障などの予兆早期発見といったことをしています。各分野のプロフェッショナルがチーム一丸となって、トータルで最適なソリューションを提供することを目指します。



予防保全(保全計画)



川や海の水質保全

汚染水の海洋放出を低減する



事業者の現場のデータをいつでも・どこでも収集し伝達でき、監視できる「UnityBoy」製品を活用することによって、水質の保全の課題を解決し、海の豊かさを守ることにも貢献します。

●現状課題

海洋汚染は、私たちの生活から発生する海洋ごみによるものだけではなく、工場排水によっても起こっています。工場排水は富栄養化(植物プランクトンの異常増殖)など生態系にも影響を及ぼします。

2021年の全国一級河川の水質現況では、工場排水や下水中に含まれている窒素やリンは、東京湾などの閉鎖系の海域に流れ込むと富栄養化を引き起こすとされ、水質の保全が課題となっています。

●目指す姿

工場現場の水質データをいつでも・どこでも収集・伝達でき、監視できる「UnityBoy」製品を活用することによって、水質の保全の課題解決を実現します。

●取り組み

処理が不十分な水が工場から放流されてしまった場合やその危険がある場合、どれだけ早く異常を発見できるか、一刻を争う対応が迫られます。

その問題解決のために管理者の増員や水質データを収集・伝達するための新たなシステムを導入すると、コストが非常に高くなります。

「UnityBoy」製品は、コンパクトなサイズを活かして既存の設置環境に合わせて容易に設置できるため、コスト削減に貢献します。またスマートフォンやタブレットなどのスマート端末による監視ができます。

●事例紹介

これまで工場で使用した水は水処理装置によって浄化した後、水質分析装置によって環境規制に適合する水質であるかを確認するために監視・測定を行ってきました。しかし、水質の測定には特別な技術を必要とされ、専門のスタッフによる管理が行われてきました。万が一の事故や突発故障時、汚水が海洋に流出することを防ぐためには、リアルタイムに複数部門のスタッフが危険兆候を把握した上で適切に対処を行う必要がありました。

そこで「UnityBoy」製品の最大の特徴である豊富なインターフェース機能を活用し、データ収集はModbus通信による記録計のデータの取り込みを行い、上位システムへは既存無線LANシステムによって接続を行うことができました。その結果、最小限の投資でお客様企業の抱える課題を解決するシステム構築ができました。

●今後の展開

現在、多くの企業では水質分析計がスタンドアローンシステムとなっており、上位システムとの統合運用が実現されておりません。お客様企業へのご提案と併せて水処理メーカー各社に対しても、当社の製品を紹介し、本システムが広く導入されることによって汚染水の海洋放出が低減されることを目指します。



現場のデータを監視できる「UnityBoy」製品

わ

くわくワークショップ

小・中学生対象ワークショップによる未来の技術者育成

子供たちがモノづくりや技術をより身近に感じられるワークショップ(体験型講習会)を開催し、子供たちに技術者という職業に興味を持ってもらうことで、未来の技術者育成に貢献します。

●現状課題

世界は、生産設備の能力を飛躍的に高め、産業化を推進してきました。しかしながら、少子高齢化が加速する中、技術者の不足によって、技術伝承や高度な生産性の維持が困難になる可能性があります。パーソル総合研究所と中央大学との共同推計『労働市場の未来推計2030』では、製造業の技術者は2030年には38万人不足すると報告されています。

●目指す姿

技術者を永続的に確保するとともに、今ある高度な技術を次世代へ引き継ぎ、産業の更なる発展の為、有能な人材を育成することを目指します。

●取り組み

子供たちが様々な技術分野に興味を持ち、より身近に感じられるようなワークショップを開催し、自社製品や関連する技術にふれて、学べる場を提供しています。

2022年からは文部科学省が推進する「土曜学習応援団」に賛同・登録し、地域の教育団体と広く連携することに取り組んでいます。「土曜学習応援団」は、子供の豊かな学びを支えることを目的に、子供たちに対し、夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等に民間企業等が出前授業を提供するものです。

当社は「ワークショップによる未来の技術者育成」としてCDコマ製作の教育プログラムを提供しています。

●持続可能な活動に向けて

ワークショップを継続的に提供できるよう人材育成にも取り組んでいます。新入社員を対象にSDGs研修を実施し、当社のSDGs活動について学び、実際の小・中学生対象ワークショップを体験する場を設けています。研修を通じて、SDGs活動の興味と理解を促し、次代のSDGs活動を担ってくれる人材を育成し、持続可能な活動に繋げていきたいと考えています。



新入社員によるワークショップ体験

●2030年目標

ワークショップへの参加者数 200人(累計)
(2023年3月現在の参加者数 17名)

●教育プログラムへのお申込みはこちら

小学校1年生から中学校3年生を対象にモノづくりの楽しさや面白さを感じてもらえる教育プログラム「ワークショップによる未来の技術者育成」を提供しております。お問合せ・お申込みは、下記までご連絡ください。



文部科学省「土曜学習応援団」特設サイト
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/index.html>

事務局	SDGs推進室
メールアドレス	VE-SDGs@shinkawa.co.jp

事例紹介1 モノづくり体験 ～オリジナルのCDコマを作ってみよう！～

本ワークショップは、当社の得意分野である振動技術に子供たちが興味を持ってもらうことを目的として開催しました。

●危険予知訓練

CDコマ製作の前に、危険予知訓練を実施しました。子供たちの日頃の行動を描いたイラストを使用し、危険につながると思う箇所に○を付けてもらいました。なぜそこに○を付けたのか、なぜそう考えたのかを参加者全員で共有し、理解を深めました。

●CDコマの製作

コマの軸は重さと先端の形が異なる材料を用意して、どの軸が一番よく回るのか、また、CDに重りを配置して回転時間がどのように変わるかを確認しました。子供たちがよく回ると考えた組み合わせで、シールや絵で飾った自分だけのオリジナルCDコマを作ってもらい、最後にコマ回し競争を行いました。

●参加者の感想

- ・危険に対する考え方に触れることができた。
- ・形・重さの組合せで結果が変わるという事が体験できた。
- ・楽しみながら技術にふれることができた。



CDコマの製作

事例紹介2 技術体験 ～本物の仕事道具で遊んでみよう！テスター編～

本ワークショップでは、自分が製作した備長炭電池の性能を予測し、実際に仕事で使う計測器(テスター)を使って検証することにより、モノづくりや技術に興味をもってもらうことを目指しました。

●テスターの操作

テスターの操作方法を説明し、実際に乾電池の電圧を測定しました。また、乾電池に豆電球をつなぎ、明るさを確認しました。

●備長炭電池の製作

備長炭と塩水、キッチンペーパー、アルミホイルを使って備長炭電池を作り、豆電球をつないで乾電池との光り具合を比較しました。また、テスターで電圧を測定し、違いを確認しました。身近な材料で電池を作ることができることに、子供たちはもちろん保護者も驚きながら楽しんでいました。

●参加者の感想

- ・オンラインで参加できたことがとても良かった。
- ・SDGsについて家族で考える良い機会になった。
- ・本物のテスターを使って実験するところが良かった。



備長炭電池の製作

E CO活動

● 現状課題

地球温暖化は環境や気候、生態系などに取返しのつかない影響を与える可能性があります。

● 目指す姿

限りある資源と地球環境を守り、持続可能な社会の実現を目指したいと考えています。

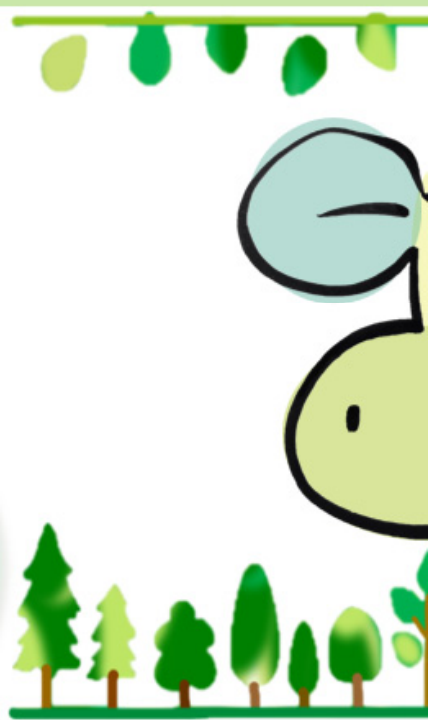
● 取り組み

当社SDGsプロジェクトで「Eco会」というチームを作り、地球温暖化を防ぐための活動に取り組んでいます。チーム名の「Eco」は、生態学・自然環境を意味するエコロジーの略語で、地球環境に優しいといった意味で広く使われていますが、私たち一人一人がたとえ小さな取り組みでも地球環境に優しいことを考えて行動するという想いを込めています。



● 事例紹介『社内報Eco Letter』

社内報を活用して、節電アドバイスや社員が取り組んでいるエコ活動の紹介などエコに興味を持ってもらうための記事をEco Letterとして社員に届けています。



エコ活動をもっと身近にもっと楽しく感じられそんな想いを込めて、社内報Eco Letterを2022年からこの取り組みを開始し、少しずつまだまだエコの種が蒔かれたばかりです。社



白井 加織 阿部

SDGsプロジェクト

健

康経営

禁煙支援・食生活改善による社員の健康保持・増進

社会の高齢化や労働力人口の減少に対し、社員が健康に長く働き社会に貢献できるよう社員の健康保持・増進に取り組んでいます。

●現状課題

社会の高齢化が急速に進み、社会保障費の拡大が日本の財政を圧迫しています。また労働人口の減少や労働人口における高齢者の割合の増加は、深刻な人手不足を招き、経済活動の停滞が懸念されます。

誰もが健康に長生きし、社会に貢献できるようにするためには、企業で働く期間をいかに健康で過ごすかが重要で、その後の健康寿命に大きく影響します。

●目指す姿

社員の健康保持・増進の取組みが、社員の健康寿命を延伸し、企業にとっても社員の活力向上や生産性の向上、また労働力の確保に繋がります。

当社の経営基本方針「企業の着実な発展と社員の幸福」の実現に向けて、社員が元気に長く社会に貢献できるよう、社員の健康保持・増進に取り組めます。

●取り組み

休暇取得の促進、育児・介護・治療と仕事の両立支援など、社員の健康保持・増進制度を導入し、働きやすい環境を整備するほか、SDGsプロジェクトで、社員の食生活の改善活動や希望する社員への禁煙サポートに取り組んでいます。

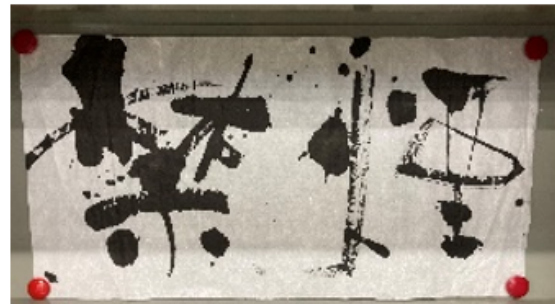
●事例紹介『禁煙支援』

2020年4月1日に改正された健康増進法で義務化された受動喫煙防止対策として、当社も事務所内での禁煙、分煙化を実施しました。

また、同時期に開始したSDGsプロジェクトで、社員の健康保持・増進を目指して、禁煙支援に取り組み始めました。

産業医や専門家による禁煙講話の定期開催、5/31世界禁煙デーや毎月22日に「スワン・スワンデー」として就業時間内の禁煙にチャレンジするイベント開催、禁煙治療費用補助など、禁煙を希望する社員への禁煙サポートを実施しています。

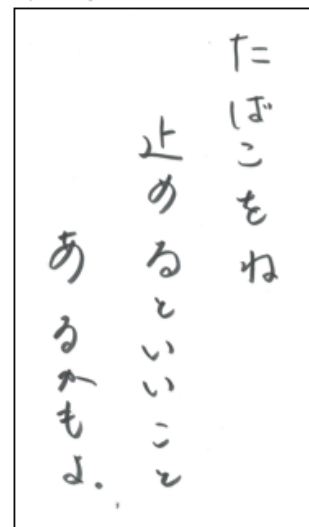
2022年からは『スワン・スワンチャレンジラリー』として、禁煙にチャレンジしたい喫煙者と禁煙をサポートする非喫煙者のサポーターがひとつのチームとなり、仲間同士で禁煙に取り組む活動をスタートしました。複数チームがチャレンジし、社内SNS上で喫煙者の苦労やサポーターの応援風景を共有し、楽しみながら禁煙活動に取り組んでいます。



サポーターの心強い応援メッセージ



仲良く禁煙チャレンジ



サポーター心の一句

●事例紹介『食生活改善』

2021年実施した健康に関する社員アンケート調査で、社員の4人に1人が朝食を「食べない」または「ほぼ食べない」ことが判明し、SDGsプロジェクトで社員の食生活改善に取り組み始めました。

朝食フォトコンテスト

朝食を抜くとやる気の低下に繋がり、業務の成果にも影響します。また、朝食の摂取頻度が低い人ほど肥満になりやすくなります。まずは社員が「朝食」に興味・関心を持つことを考え、社内報に朝食の重要性についての記事を掲載したり、朝食フォトコンテストを定期的で開催しています。

朝食フォトコンテストでは、全社員を対象にテーマに沿った朝食の写真を募集します。2022年は「免疫力をアップする朝食」をテーマにコンテストを開催しました。募集に際して、社内報で保健師による「免疫力アップの食事」講座の記事を掲載し、免疫力アップの食事とはどういうものを理解してもらいました。コンテストには、洋食、和食、田舎風朝ごはん、手作りパンなど工夫を凝らした数々の力作の応募があり、SDGsプロジェクトメンバーが審査員となり、「免疫力」「手軽さ」「栄養バランス」「エピソード」の4項目について評価し、上位作品には「最優秀賞」「バランス賞」「チャレンジ賞」などを授与し、記念品を贈呈しました。

本コンテストは審査結果の発表時にはコンテストサイトへのアクセスが急上昇する人気企画となっており、多くの社員に朝食に関心を持ってもらうことにつながっています。

食生活アドバイス『支社長の昼食拝見』

2022年からは社員にバランスの良い食事をとってもらうために、支社長の昼食に対して保健師からのアドバイスをを行う『支社長の昼食拝見』企画を開始しました。

支社長に普段の昼食の写真を撮影してもらい、保健師がカロリー計算や栄養素の摂取状況の分析を行い、改善のアドバイスを実施しました。

支社長の昼食は、外食派・愛妻弁当派・菓子パン派・仕出し弁当派と様々でしたが、保健師の分析により仕出し弁当が優秀なバランスの食事であることがわかったり、偏ったバランスの昼食でも不足している栄養素を少しプラスすることで理想に近い食事となることがわかり、全社員の食生活改善のきっかけになっています。

●今後の展開

健康経営優良法人認定制度においてホワイト500取得を目指し、従業員一人一人が心身ともに健康を保ち社会に貢献できる体制を構築します。



朝食フォトコンテスト・食生活アドバイス



コンテスト応募作品

が

がん予防・治療への貢献 がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい

3 すべての人に
健康と福祉を



当社では、がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす「がん征圧活動」に取り組む公益財団法人日本対がん協会への寄付を通じて、がんになっても希望を持って暮らせる社会の実現に貢献しています。

●現状課題

1981年以来、がんは死因の1位であり、生涯で2人に1人が罹患する病気です。新たにがんと診断される人は毎年100万人前後にのぼります。

●目指す姿

がんは早く見つけることができれば治る可能性が高い病気であり、がん検診により早期にがんを発見し治療できるため、検診の受診率を向上を目指すとともに、がんになっても安心して暮らせるようにがんと共生できる社会を目指します。

●取り組み

がん予防・検診の推進、がん患者・家族の支援、がんに関する正しい知識の普及啓発に取り組む公益財団法人日本対がん協会への寄付を通じて協力します。

また、働く世代の6～7人に1人ががんになり、更に雇用延長の増加により従業員の罹患者の増加が見込まれます。従業員のがん検診やがん予防のための知識向上を通じて、啓発活動に取り組んでいます。

●今後の展開

健康経営優良法人認定取得につながるヘルスリテラシーの向上に取り組めます。

社内コミュニケーション

社員が学べるオンライン図書館設立

8 働きがいも
経済成長も



社員が図書を通じて交流できるオンライン仮想図書館を提供し、社内コミュニケーションを活性化し社員が相互に啓発し合う職場をつくります。

●現状課題

当社では新型コロナウイルス感染拡大によるリモートワークの普及などで社員同士の交流機会が減少しました。特に新入社員や中途入社社員は、社内の人脈づくりが難しく、気軽な質問や相談がしづらい状況にありました。

●目指す姿

すべての社員が業務に関わる不安や悩みを解消し、自発的に成長できる働きやすい職場づくりを目指します。

●取り組み

図書を通じて社員が部門や拠点を超えて知見を共有できるオンライン仮想図書館『井戸端図書館』を開設しました。社員が業務に関する専門書や資格取得用の書籍、また趣味や感動した書籍を紹介し合うコミュニケーションの場として運用しています。

このアイデアは、SDGsプロジェクトメンバーの一人が入社後に配属先の上司に紹介してもらった書籍が業務を遂

行する上で非常に役に立った経験から、書籍を介した交流は社員同士が世代を問わず相互に啓発し合う関係を構築できると考えたことから生まれました。

新入社員など入社間もない社員にとっては、上司や同僚が推薦する図書紹介でその人柄をうかがえ、業務で困った時や不安がある時には「こんな本を紹介して欲しい」と助けを求められることができる場になっています。困っている社員にお薦め図書を紹介することで支援した社員にはささやかなプレゼントを贈るキャンペーンなども企画しています。

●今後の展開

『井戸端図書館』では、全国の支社・支店に保管されている蔵書を有効活用するため、図書の貸し借り・贈与制度の仕組みを取り入れ、オンラインから実物の書籍にアクセスできる図書館へ拡張し、全国の社員との交流の活性化と社員の自己啓発に寄与することを目指します。



新 川電機のSDGs

全社SDGsプロジェクト活動



当社では、「SDGs活動を通じて企業と社員の質の向上と社会貢献」を全社方針に掲げてSDGsプロジェクトを開始しました。社長をトップとし、立候補した社員による全社組織体制で社会課題の解決に取り組んでいます。

●新川電機が目指す姿

当社は、未来の地球と人々の暮らしを守るためにSDGs（持続可能な開発目標）の社会課題を全社員が理解し、技術商社と振動センサメーカーの強みを活かした事業活動を通して、地球環境や地域社会、経済基盤などの社会課題の解決に取り組めます。

そのために、社会課題の解決に貢献できる人材の育成や製品・サービスの開発を進め、お客様や地域社会とのコミュニケーションおよびパートナーシップを積極的に進め、製品・サービスの社会価値向上を目指します。

●取り組み

全国の社員が職制・職種を超えて集まり、SDGsについて学び、どのように社会に貢献するかを考え、新製品・サービス開発や地域貢献事業、社会貢献人材の育成など様々な新プロジェクト活動に取り組んでいます。

●プロジェクト体制

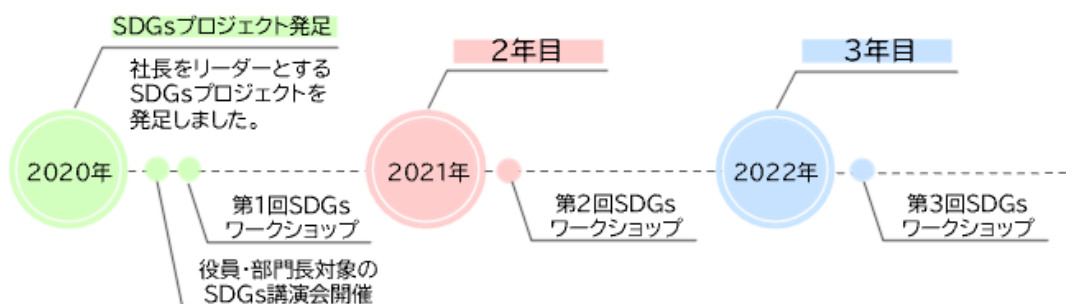
年度ごとにSDGsプロジェクトメンバーを新川電機グループ全社で募集します。集まったメンバーは、SDGs推進室や人事部、総務部の支援のもと、1年間、社会課題テーマを選定し、その解決に取り組めます。

●SDGsワークショップ開催

SDGsプロジェクトの新任メンバーを対象に、SDGsワークショップを開催しています。SDGsについて学び、様々な社会課題に対し何ができるかアイデア発想を行います。ワークショップで上がったアイデアからメンバーが取り組みたいテーマを選定してチームを作り、1年間のプロジェクト活動に取り組めます。

●SDGsレポート発行

プロジェクト活動の成果は、SDGsレポートにまとめ、公開しています。本レポートは、原稿作成からデザイン、校正までSDGsプロジェクトメンバーが担当し作成しています。本年度レポートの表紙・背表紙はSDGsの文字をデザイン化し、経営者メッセージのページは兔年にちなみ飛躍する一年にするという願いを込めてうさぎをデザインしています。



	活動テーマ		活動テーマ
1	振動解析診断システム開発による社会インフラ設備の予知・予兆保全と自動自立運転の実現	8	振動監視システムによる再生可能エネルギーの有効活用
2	回収熱利用空調機システムによる二酸化炭素排出量低減	9	IoT化、DX技術導入支援サービス開発
3	振動遠隔監視システムによる製造設備の運用監視拡大	10	小・中学生対象ワークショップによる未来の技術者育成
4	振動診断士養成セミナーによる振動監視技術者育成	11	社内制度改革による働きやすい職場づくり
5	製造設備のIoT化による工場の生産性向上	12	社員の健康づくり
6	開発途上国への技術者派遣による産業基盤構築	13	採用制度改革による地域貢献
7	環境に配慮した製品づくりによる環境保全	14	社内eco活動による環境保全
		15	社員が学べるオンライン図書館設立



新川電機株式会社

東京本社：〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目3-3新麹町ビル3F

広島本社：〒730-0037 広島県広島市中区中町8番12号広島グリーンビル7F

<https://www.shinkawa.co.jp>

